

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 13日

事業所名 障害児通所支援事業 ふらわーず

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			・法令を遵守したスペースを確保している。	・定員10名だが、利用人数が多い場合、発達段階、年齢等に分けグループ活動を行うなど、工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	6			・法令で必要とされている配置数に加え、保育士、又は、児童指導員を配置している。	・毎日の職員配置は、5名としているが、急な会議・研修等で職員人数が減った場合、第一に利用者の安全を確保し、活動内容等の変更を行って対応。(令和2年12月より保育士が産休・育休になったため、その補充を探しているが中々難しいのが現状)
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2		・階段が多く、風呂・トイレは狭い。玄関も狭いため、バリアフリーには、欠ける。また、掲示物などは、利用している子供や見学する方が見ても分かりやすいような表現とふりがなも振って分かりやすい状態にしている。	課題)手すりなどの設置はあるが、重度の障害のお子さんを預かるだけのバリアフリー化は出来ないし、それだけの事業所のスペースを確保することは、難しい ⇒改善点:今の所、重度のお子さんの受け入れに関しては、保護者に見ていただいた上で、事業所を選んでいただいている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			・コロナ感染防止も有り一日2回の消毒徹底。毎日の清掃、洗濯で清潔感の徹底。活動内容と発達段階に応じた活動場所の変更を行っている。また、野外での遊び場もあり個々に合わせた空間になっている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		・ミーティングを行いながら、全職員の意見を反映している。また、目標設定と振り返りは、全職員は関わりながら、日々改善に努めている。	・ミーティングとは別に、管理者ではなく主任による個々人への説明・対応を徹底しながら業務改善を行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		1	・保護者の意向や要望をなるべく受け入れるよう対話に重きをおいて、納得が行く説明を心がけている。	・自己評価もだが、事業所の活動については、その都度、アンケートを行い、保護者と内容の共有を行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1	2	・HPIにアップして公開している。HPを見られないご家庭の為に、事業所評価結果を印刷して各ご家庭に配付している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	2	・外部評価は行っていない。	・今後の検討課題。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			・今年度は、コロナの影響で所外での研修参加は難しかったものの、正職以外にパート・アルバイトも一緒に「保育士」資格取得に向けて全員で勉強会を週1日時間を設けて行うことができた。次年度も何か目標を設定し、職員の資質向上に向けて独自の研修会を行っていきたいと思っている。	課題)「保育士」試験に向けて勉強会を事業所職員全員で行ってきたが、元々、教育分野や福祉分野の学びがない状態で勉強をしても思った結果が残せなかった。⇒改善点:次年度は、取得資格のために助成金等の補助を受けながら、外部の機関への学びの場を進めていく。(現在、1名:保育の専門学校進学予定あり)
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			・年に2回、個別支援計画を作成し、面談を行っている。その中で、子どものニーズと保護者のニーズを拾い上げ、再度、個別支援計画の見直しを行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	1	・独自のアセスメントツールを作成し、使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		・児童発達支援計画を独自の『想い実現プラン』と称し、本人との面談の上、保護者からの要望も考慮しながら、具体的な支援内容を設定している。	・常勤の職員だけでなくパート・アルバイト職員でもできる具体的な内容を設定し、個々に配慮した取り組みを行っている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			・児童発達支援計画を独自の『想い実現プラン』と称し、本人との面談の上、保護者からの要望も考慮しながら、具体的な支援内容を設定している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			・職員全員で意見を出し合っチームで活動を考えている。細かい流れについては、各担当に任せ役割分担をしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			・日ごとに違った活動設定を行い、活動も幅も広くしている。また、月の予定表を作成し、活動を行っている。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			・お子さんのニーズに合わせた個別活動、集団活動を行っている。例えば、個別活動が好きなお子さんの時は、職員がマンツーマンで対応し、臨機応変に対応している。		

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			・集団活動(レクリエーションなど)の流れを職員間で読み合わせし、共通理解のもと、活動に取り組んでいる。	・職員間の役割分担をしっかりと行い、活動においては、チームで行う意識をもって取り組んでいる。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		・支援した当日でなく、次の日に行っている。また、活動記録の項目担い付加情報等を記入し、その日に気になった所を記入することで共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		・日々の支援記録を徹底し、支援の検証・改善に繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			・年に2回、モニタリングを行い、保護者には、面談でその旨を伝えていく。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			・サービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者とその子どもの担当も一緒に参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			・必要に応じて子育て支援等の関係機関と連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			3	3	・看護師不在のため、医療的ケアの必要なお子さんを受け入れていない。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			3	3	・看護師常駐でない事と、よく動き回る利用者が多く、限られた施設内で受け入れるとなると受け入れは、難しいと思われる。	・現在、医療ケア(喘息発作)があり、医療的配慮の必要なお子さんはいりますが、保護者との密な連絡調整と定期的に病院受診の状況を保護者から聞き、対応の方法を全職員で共有しながら対応に当たっている。
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5				・保育所等への送迎の際、情報の共有をしている。また、会議などへは、積極的に参加し、他事業所間との連携に努めている。	
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5				・必要に応じて関係機関との情報交換を行っている。また、事業所側からの移行支援会議の発信もしている。	
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	1		・児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の研修に、職員を積極的に参加させている。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
者との 連携	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	3	1	・公園に行った際に地域の保育園の子がいる中に入り関わる機会を作っているが、一昨年に比べて、コロナの関係で交流機会が少ない。	・今後、利用者と共に、地域の活動に積極的に参加し、事業所発信の催しへと発展させていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	2	・連絡があった場合、積極的に参加している。また、今年度は、放課後等デイサービスのお子さんがコロナの中だったが、サッカーの大会に出場した。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		1	・連絡帳を作成し、その日の出来事を細かく伝えている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2	1	・保護者に対しては、常に相談ができる体制はとってはいるが、ペアトレを徹底して行っている訳ではない。しかし、保護者に対して、外部でのペアレント・トレーニング研修等がある場合は、案内を出している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	1	・契約時に説明。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	1		・「児童発達支援ガイドライン」については、保護者への説明は行っていないが、年に2回、個人面談時に児童発達支援計画の読み合わせを行い、事業所の活動等については、同意を得ている。	・個人面談の案内を出すのが、半数が来られない状況。事業所としてもご本人さんへの児童発達支援計画の上の、支援状況を知ってもらいたい。出来るだけ、面談に来ていただけるように徹底していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			・送迎時や連絡帳にて把握し、必要に応じて話を聞く機会を設けるようにしている。	課題)会社全体では、保護者に対して相談・助言に努めているが、対応できる職員に偏りがあり、職員全員がそのスキルを身につけていない。 改善点:職員研修の中で、ロールプレイを入れながら、相談されたときの対応方法などスキルを身につけられるようにしていく。事業所内だけでなく、外部の研修等でスキルアップをしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	1	・子ども達の活動報告と年間の行事予定など、父母会を開催。保護者同士のラインも作っている。	・今年度は、コロナの影響で父母会や宿泊学習説明会等の保護者同士で集る機会は減ったので、その分、電話や送迎の際で保護者とのコミュニケーションをしっかりと取ってきた。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			・苦情受付担当者を設けて適切に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			・毎月の予定表の他に、HP、【「ふらわーず」だ・よ・り】を不定期に配布し、情報発信している。	・令和3年2月でホームページを更新し、活動内容がいち早くわかる状態を作っている。(ホームページの中でブログも更新中)
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			・職員に関しては、事業所入社時に、【誓約書】を交わし、「個人情報事業所以外に持ち出さない」「辞めた後も同様である」など、徹底している。事業所のデータについても、事業所外での使用を禁止している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			・個々の障がいの程度に合わせた配慮を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5	1	・今年度は、コロナの感染対策で児童館に行くこともなく、発信もしていない。次年度は、地域の児童館利用や催しへ参加しながら、事業所から地域へ発信していきたい。	・地域の方々を招待するするまでには、至っていないが、まずは、事業所の活動で地域に出向く事を増やし、知っていただくことを優先にしている。
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		1	・平成31年3月に緊急時対応マニュアル等を設置。年度初めで、保護者には配付している。	課題)父母会などでお伝えはしているが、全保護者に行き届いている感じではない。 改善点:次年度の父母会において、再度緊、緊急時対応マニュアルの説明を行う事と、ホームページ上にマニュアルを載せていつでも見られる状況を作る。	
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			・年に2回、避難訓練を行っている。 ・現在までに【地震・火災・不審者】の避難訓練を行った。		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			・契約時に確認。発作を起こした際の対応も職員の目に見える場所に貼りだしている。		

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			・保護者からの連絡があった場合、対応(契約時に確認) ・保護者より要望のあった場合のみ配慮(アレルギー児のみ、意思の指示書提出をお願いしている)	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2	1	・ヒヤリハットノートを作成し、いつでも職員が共有できる状況にしている。また、毎日のミーティングでヒヤリハットかな?と思われる事案に関しては、職員間で議論している。	課題)まだ、事例集の作成は、していないため今までのヒヤリハットのノートを整理して、事例集にして行ければと思う。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	1	・年度初めに、事業所内研修を行い、職員同士共通理解をしている。 ・今年度は、行けなかったが、事業所外の虐待防止の研修も毎年交互に受講している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			・事業所内研修で、身体拘束についての理解は、全職員出来ている。	課題)身体拘束の必要なお子さんがいないことで保護者に対して同意書を作っていなかったが、令和3年度から全利用者に関して身体拘束についての同意書を説明していく予定。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。